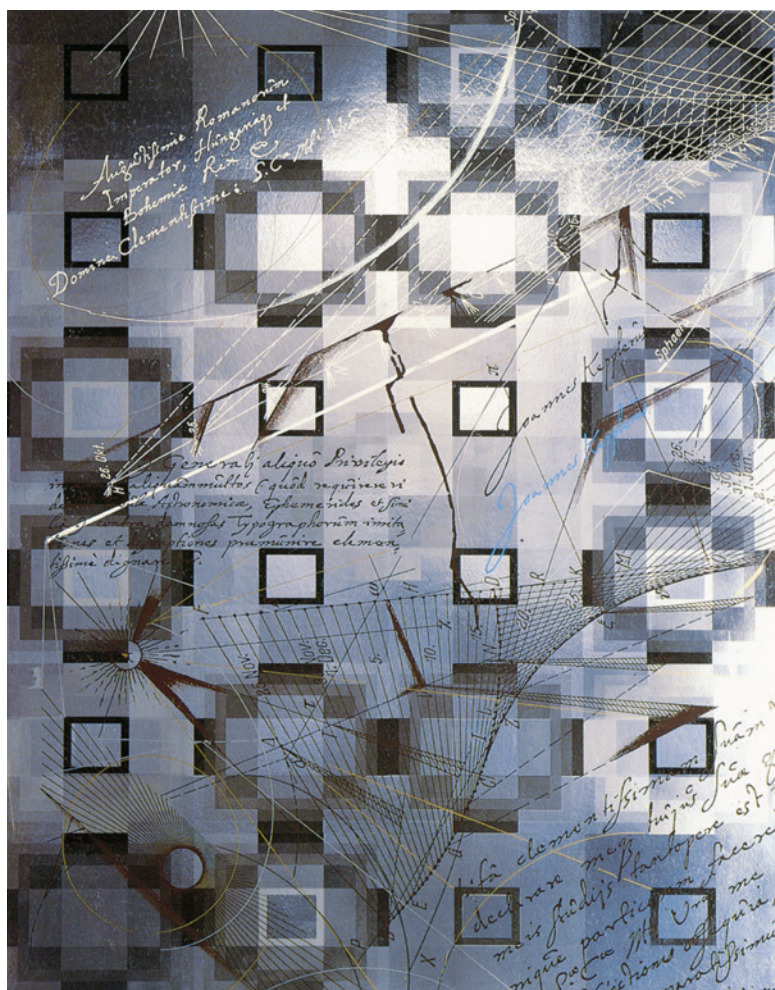


*Digest of Science of Labour*

# 労働の科学



2021  
*February*  
Vol. 76, No. 2



特集

巻頭言

## 新型コロナウイルスと新しい労働生活(3)

社会的課題と向き合う

在宅ワークでチャンス到来! オンライン化の波に乗って／白田千佳子  
コロナ禍におけるデザイン・商品企画分野の産学連携授業について／羽深太郎  
コロナ禍を乗り越え文化・芸術の灯を ともし続けるために／森崎めぐみ  
コロナ禍のもとでの外国人労働者の現状と課題／指宿昭一  
お客様に安心と安全を提供するために／中日臨海バス株式会社  
コロナは強い団結心と絆で乗り越えるー全国屈指福祉文化先駆都市の挑戦／岡山県総社市

新型コロナウイルス禍とSDGs  
井上枝一郎

連載

凡夫の安全衛生記⑨  
福成雄三

今、チェルノブイリは②  
千葉百子

# 労働の科学

February  
Vol. 76, No. 2

## 巻頭言

俯瞰（ふかん）

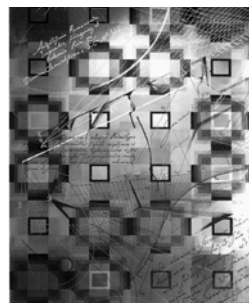
創立百年——これからの労研の役割とあり方②

新型コロナウイルス禍とSDGs

井上 枝一郎 [大原記念労働科学研究所 理事]

1

表紙作品：山本美智代  
「ケプラーへのオマージュ」  
シルクスクリーン（93×68cm）  
表紙デザイン：大西文子



## 新型コロナウイルスと新しい労働生活 (3) 社会的課題と向き合う

在宅ワークでチャンス到来！オンライン化の波に乗って  
土台づくりはますます大切に

[保健師] 白田 千佳子 ..... 4

コロナ禍におけるデザイン・商品企画分野の産学連携授業について

[京都光華女子大学短期大学部] 羽深 太郎 ..... 9

コロナ禍を乗り越え文化・芸術の灯をともし続けるために  
フリーランス芸能従事者の実態

[協同組合日本俳優連合 国際部長] 森崎 めぐみ ..... 14

コロナ禍のもとでの外国人労働者の現状と課題

[弁護士・暁法律事務所] 指宿 昭一 ..... 20

お客様に安心と安全を提供するために  
全社を挙げてコロナ対策を展開

中日臨海バス株式会社 ..... 24

コロナは強い団結心と絆で乗り越える  
全国屈指の福祉文化先駆都市の挑戦

岡山県 総社市 ..... 28

**Graphic**

広がる参加型職場環境改善 2 [見る・活動](121)

..... 長須 美和子 ..... 口絵

**Series**

労研アーカイブを読む (65)

ACC機能を用いた運転操作の判断分析 ..... 椎名 和仁 ..... 40

凡夫の安全衛生記 (49)

「数にこだわる」安全衛生統計要綱の整備 ..... 福成 雄三 ..... 44

今、チェルノブイリは

チェルノブイリ原子力発電所周辺視察報告 (2) ..... 千葉 百子 ..... 50

**Column**

労働科学研究所ワークショップ (オンライン)

就労支援と現場参加型の職場づくり ..... 佐野 友美 ..... 35

BOOKS

『歩行者事故はなぜ起きるのか』

歩行者事故を多角的に分析して究明した良書 ..... 岸田 孝弥 ..... 48

労働科学のページ ..... 59

次号予定・編集雑記 ..... 64

# 新型ウイルス禍とSDGs

井上 枝一郎



世の中は新型ウイルスの蔓延により、その対応に翻弄されている毎日である。人々は「在宅勤務」を余儀なくされ、人間関係はテレワークなどによるインターネットを駆使したバーチャルなものへと変遷している。生活様式、働き方の変化、ソーシャルディスタンスを保つ人々との距離感等々、ついこの間までには考えられなかった程の様変わりのある生活である。こんな生活状況の中、思い起こすのは2015年5月に国連で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）の提唱である。当初この言葉は、建前論に過ぎず、およそ我々には縁遠い事柄のように聞こえたものであった。

ところが、現在、新型ウイルスの災禍を受けるに至ってSDGsは我々日本人にとっても、言わば市民権を得たかのようになり身近な言葉となった。もちろん、17歳の少女グレダさんが2018年に国連で行った気候変動による地球環境の危機に関わる演説の効果には大きいものがある。しかし、彼女の言説に触発されるまでもなく、この新型ウイルス禍に見舞われた世界中の人々の心の中に、このままの経済優先社会で良いのか、資源獲得競争に任せたまの地球環境破壊を続けて行っているのかという疑問が芽生え始めたこともSDGsが身近なものとなる上では大きかったのではないだろうか。なぜならば、新型ウイルスの出現こそが経済発展を謳歌していた我々にとって、そ

れは自然界からの警告でもあり逆襲ではないかと思えるからである。さて、本誌のテーマである「労働」に関わるSDGsと新型ウイルスとの関係にも触れておきたい。一見したところ新型ウイルス禍克服とSDGsの目標達成との関係は希薄なようにも思える。しかしながら、新型ウイルス禍の克服（不要不急の外出制限等々）を短期的目標に、一方、持続可能な開発目標（再生可能エネルギー開発等々）を長期的な課題として捉えるならば、両者の関係は軌を一にした概念として繋がっているのは確かだと思える。

SDGsの中には（Goal 8）「2030年までに、若者や障害者を含むすべての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用および働きがいのある人間らしい仕事、ならびに同一賃金同一労働を達成すること（南博訳）」と謳われている。奇しくも当研究所は今年創立百周年を迎える。創立者の大原孫三郎は「労働者の人間性にフォーカスを当てた職場環境改善」を根幹に据えた多くの事業を展開している。百年前のこの理念は、上述のSDGsの提唱された考えに正に合致するものと言えないであらうか。テレワークを駆使して「家にいること」が勧められ、同僚や友人との対話もままならないこの状況下において、我々一介の市民・労働者は上述の目標達成に向かつて一体何ができるのであろうか。

いのうえ いちろう  
大原記念労働科学研究所 理事  
主な著書…  
・「心理学の理解」編著…労研出版  
・「事例で学ぶヒューマンエラー」共著…麗澤大学出版会  
・「産業心理臨床」共著…星和書店

不自由な生活様式に耐え、SDGsが言うところの地球環境規模の視野に立つて将来の生活・労働現場のあるべき姿に思いを馳せる事こそ、百年という時間を経てもなお上述の大原の理念を達し得ていない我々の責務ではないかと思うところしきりである。  
スーパーやコンビニのレジ袋が有料化されて久しい。たった2円か3円のことながら、我々の地球環境破壊への思いを喚起する契機になると思えば無視はできない。  
筆者もレジ袋を断ったばかりにリンゴを手を抱えての帰り道、それらを路上に落としてしまった。しかし、これもグレダさんの呼び掛けに応えた行動だと自分に言い聞かせてはいる。だが、悔しい思いも捨て切れぬ。身近なこの葛藤に打ち勝つてこそ毎日だとは思ふのだが……

